

令和5年度内閣官房 健康・医療戦略室委託事業  
「アジア健康構想」実現に向けた海外市場創出額（KPI）等の調査  
「アジア健康構想」実現に向けた  
介護・ヘルスケア産業に係るイベント実施

事業報告書（概要版）

2024年3月



# 1. イベント実施概要

## ◆背景と目的

- 本事業においては、アジア健康構想下の取り組みの一環として、アジア健康構想の重点分野である介護・ヘルスケア産業に係るイベント運営補助業務を行うことで、健康構想に関連する過去の事業における好事例の横展開を図り、健康構想下における事業の形成に役立てることを目的とする。

## ◆開催概要

項目	内容
イベント名称	「グローバル社会における誰もが活躍できる介護の職場づくりに向けた知見共有会」
開催日時	2024年2月7日(水) 13:00-16:00
開催形態	ハイブリッド開催(現地・オンライン)
開催場所	霞が関プラザホール (住所：東京都千代田区霞が関3丁目2-5 霞が関ビルディング 1階)

## ◆登壇者

登壇者名	ご所属・役職
竹山大二郎 氏	社会福祉法人 秀峰会 施設事業部 事業部長
田島香代 氏	社会福祉法人 奉優会 経営企画統括本部 理事 統括本部長 (人材開発確保対策室 室長)
奥野和年氏	社会福祉法人 報恩会 理事長
甘利庸子氏	のぞみグループ 代表

## ◆プログラム

時間帯	議事次第	登壇者等
13:00-13:05	開会挨拶	内閣官房 健康・医療戦略室 参事官 宮原光穂氏
13:05-13:20	イベント趣旨説明/行政説明	内閣官房健康・医療戦略室 参事官 補佐 櫻井智美氏
13:20-13:35	「ベトナム人介護士の育成と定着支援の取り組み」	社会福祉法人 秀峰会 施設事業部 事業部長 竹山大二郎氏
13:35-13:50	「外国人介護人材の受入れについて」	社会福祉法人 奉優会 経営企画統括本部 理事 統括本部長 人材開発確保対策室 室長 田島香代氏
13:50-14:05	「「神戸発」産官学連携による外国人介護人材戦略～介護人材不足課題への取り組み【神戸モデル介護】～」	社会福祉法人 報恩会 理事長 奥野和年氏
14:05-14:20	「人材の還流と海外介護士への教育の取り組み」	のぞみグループ 代表 甘利庸子氏
14:20-14:50	QA	登壇者全員
14:50-15:00	令和6年度介護報酬改定に関する講演	厚生労働省 老健局 高齢者支援課 課長補佐 鈴木晴香氏
15:00-15:05	介護日本語能力テストのご紹介	一般社団法人外国人日本語能力検定機構 根本和享氏
15:05-15:15	中締め挨拶	運営事務局
15:15-15:25	休憩	
15:25-15:55	情報交換会	登壇者・現地参加者
15:55-16:00	事務連絡・閉会	運営事務局

## 2-1. イベント開催実績(1)

### ◆参加者概要

- 参加形態ごとの参加者数、及び事前申込者数に対する参加率は次の通り。特にオンラインについて、高い参加率が確認された。

	現地	オンライン	計
事前申込者数(人)	44	170	214
当日の参加者数(人)	34	165	199
参加率(%)	77.2%	97.0%	92.9%

### ◆講演概要

講演タイトル・登壇者	講演概要
「ベトナム人介護士の育成と定着支援の取り組み」 社会福祉法人 秀峰会 竹山大二郎氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>当法人では、ベトナムに特化し外国人介護人材の受け入れを実施している。1国に絞った受け入れを行うことで、母国者同士の連携を深めていただけている。</li> <li>受け入れに際しては、日本語の堪能なベトナム人専属スタッフを配置し、入国や行政手続きのサポート、相談等、強力な支援体制を構築している。</li> <li>ホスピタリティには、言葉や技術、まして国籍は関係なく、心の通い合いが重要である。</li> </ul>
「外国人介護人材の受入れについて」 社会福祉法人 奉優会 田島香代氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>当法人では、国籍、性別、年齢、宗教などに関係なく、多様な人材の活躍を推進しており、法人全体の1割以上が外国籍職員である。</li> <li>法人としては、外国籍職員のキャリアアップの支援のための研修や教育の充実化、職場環境の整備に力を入れており、これにより日本人職員の定着にも繋がった。</li> <li>外国人介護人材の方々が母国へ帰国した後も活躍いただけるよう、引き続きキャリア構築の支援を実施していきたい。</li> </ul>
「「神戸発」産官学連携による外国人介護人材戦略～介護人材不足課題への取り組み【神戸モデル（介護）】～」 社会福祉法人 報恩会 奥野和年氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>当法人の所在地神戸市では、神戸市を筆頭に、神戸国際大学やJICA関西を含む連携体制「神戸モデル」を構築し、産官学の連携を推進している。</li> <li>諸外国との外国人人材獲得競争の激化する昨今の状況に対応するため、神戸モデルの下、様々な国際交流プロジェクトや、外国人介護人材育成プロジェクトを推進している。</li> <li>「神戸モデル」のスキームを参考に、全国で産官学連携がさらに進展することを祈念する。</li> </ul>
「人材の還流と海外介護士への教育の取り組み」 のぞみグループ 甘利庸子氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>当法人では、外国人介護人材に、母国で活躍するための技術を確立いただくことによる介護人材の還流を目指している。また、外国人介護人材への介護技術や日本語の教育にも力を入れており、独自の教材Nozomi Methodを展開している。</li> <li>入国直後から自信をもって楽しく介護に取り組んでいただくためには、入国前に介護や日本語に係る十分な研修を行うことが重要である。その際は是非当教材を役立てていただきたい。</li> </ul>

## 2-2. イベント開催実績(2)

### ◆登壇者開催後ヒアリング概要

- ・ 登壇者へのイベント開催後ヒアリング内容の概要は次のとおり。

#### (1) 今後のアジア健康構想関連事業推進に係るご助言

- ・ 開催形態に関し、参加者目線ではやはりオンラインの利便性が高い。
- ・ 広報については、自治体や関係機関、SNSや関連メディア等を通じ、早期から複数回にわたる網羅的な実施が必要。
- ・ 関係者毎に関心テーマは異なるため、テーマ及びターゲットの絞り込みが重要。
- ・ 今回のようなセミナー形式のイベントの開催に加え、外国人介護人材の就業の様子を見学し、交流する機会の設定や、介護事業者同士の意見交換及びそれを踏まえた提言の場など、適切な開催形態の選択が必要。

#### (2) 情報交換会に係るフィードバック

- ・ 介護事業者に加え、自治体や各関係機関の方と活発な交流を実施した。本イベントを契機として個別に事業上の連携を始めたケースもある。
- ・ 介護・ヘルスケアに関わる各関係者毎に、現在抱えている課題や関心のあるテーマは異なっていた。

### ◆参加者アンケート概要

- ・ 参加者アンケートの回答件数は103件、参加者実績199名に対する回答率は51.8%であった。回答内容の概要は次の通り。

#### (1) イベント・情報交換会満足度

- ・ イベント全体の満足度・情報交換会の満足度ともに、「4」、「5」が8割以上と高い満足度を獲得。

#### (2) 印象に残ったプログラム

- ・ 複数回答可能とし、総票数は314件であった。
- ・ 「秀峰会」、「奉優会」、「報恩会」、「のぞみグループ」への関心が多く寄せられ、講演資料やイベントの録画の共有を求める声が複数見られた。

#### (3) その他

- ・ イベント内容の理解促進のため、講演資料やイベント録画の共有を求める声が複数見られた。

### 3.まとめと今後に向けて

#### ◆今後の課題

- ・ 本イベントに係る取り組み全体を通じて示唆された、今後のアジア健康構想関連事業の推進に向けた課題は以下の通り。

#### (1) テーマ及びターゲットの絞り込み

- ・ 登壇者や参加者の声から、介護事業者や自治体、関係機関等、介護・ヘルスケアに関わる各関係者はそれぞれ異なる多様な課題感を抱えていることが示唆された。今後の事業推進においては、発信テーマ及びテーマに応じたターゲット層を絞り込むことで、より個々の課題解決に資するイベントを開催することができると考えられる。

#### (2) 有効な広報方法の検討

- ・ 広報面の課題としては、早期着手と広報網の拡充、複数回にわたる網羅的な実施が挙げられる。特に、外国人介護人材や、人材供給機関、学生への広報網の拡充により、介護・ヘルスケアに関わるさらに幅広い層の巻き込みが可能と想定される。

#### (3) 適切な開催形態の選択

- ・ 本イベントにおいては、参加者の8割以上がオンライン参加となり、アジア諸国を含む遠隔地からも参加をいただくなど、改めて参加者目線でのオンライン形態の利便性の高さが確認された。
- ・ 一方、現地・対面での交流機会を設定したことで、参加者同士の新たな連携が生まれたケースもあった。今後も取り組みの趣旨に応じ、適切な参加形態を選択できるとよい。

#### ◆まとめ

- ・ 本イベントは、当初メインターゲット層として想定した介護事業者や自治体、関係機関における管理職相当の方を中心に、約200名と多数の方に参加をいただくことができた。
- ・ 本イベントの取り組み全体を通じて、登壇者や参加者の声から、日本で介護・ヘルスケアに関わる各関係者の抱える課題や、関心のあるテーマが明らかになったところである。
- ・ 本イベントによって得られた示唆内容が、今後のアジア健康構想関連事業の推進のための参考情報となることを期待する。